

子ども食堂から生まれる人の環

長浜地区の各所で地元の支援を得て開催

子どもを取り巻く環境が大きく変化

長浜市の統計数値（平成 29 年度）をみると、小学校・中学校での就学援助率は 12.2%、児童虐待相談件数は 431 件、家庭相談実件数は 1,174 件で、いずれも増加傾向にあります。

長浜地区では、仕事の関係や駅に近い利便性などから市街地に移転し、アパート暮らしで近所づきあいが希薄になる家庭が少なくないようです。

そういう家庭は、子育てで孤立しやすく、相談できる人がいないことから、育児不安や孤立感に悩むといったことになりがちです。

昨今、各地で地域のボランティアが子どもたちに無料または安価で栄養のある食事や温かな団らんを提供する「子ども食堂」が開設されています。

長浜地区でも、当連合会の福祉・健康部会が中心となり、長浜まちづくりセンターの協力で、平成 28 年度から「長浜まちなか・子ども食堂」がおおむね月 1 回開催しています。子どもたちが食事をするだけでなく、学んだり、遊んだりするなかで、子ども同士や子どもと大人、さらには大人同士の交流の環が広がっています。



学び座と共催(H30.2 長浜まちづくりセンター)



グラン・ブルーの集会室で地元自治会と共催(H30.9)

子どもを中心に住民の交流広場へ

昨年 9 月には、グラン・ブルー長浜表参道町と神戸町自治会が合同でマンションの集会室で子ども食堂をはじめ様々な催しが開催されました。新旧住民の交流への第一歩となるものです。

子ども食堂は、地域の人同士の結びつきが薄れつつあるなか、子どもの食育や居場所づくりにとどまらず、子どもを中心として高齢者や障がいのある人たちを含む人と人を「つなげる」大きな役割を果たしていくのではないのでしょうか。

長浜地区の自治会や団体の皆さんの協力をいただくとともに、食材（たまねぎなどの野菜、お肉）の提供や開催運営への支援をお待ちしています。



暮らしデザイン懇談会を3か所で開催

これからのコミュニティでの暮らしのあり方を「協働」という視点で見直していくため、自治会長や民生委員さんなどにお集まりいただき、市と地区住民の皆さんとの懇談会を開催しました。

共通テーマには、人口減少や少子・高齢化に伴う課題を見すえ、住民と行政との協働により解決を図れることを設定しました。

具体的には、地域にあると良いこと（支え合いの仕組み、居場所など）、そのために住民同士でできること、行政に支援して欲しいことなどです。

今回の結果は、懇談会の内容を住民の皆さんにお知らせするとともに、行政の支援が必要とされるものは要望し、地元で取り組むべきことは自治

会や連合自治会、当連合会などで協議していくこととしました。

グループ	連合自治会	検討テーマ	会場
第1	第1	新しい自治会運営のあり方	長浜八幡宮
	第3		
	第6		
第2	第4	高齢化に伴う地域連携のあり方	南日吉会館
	第5		
	第7		
第3	第2	防災力向上のための連携方策	田町会館
	第8		
	第9		

女性の参加や地域外の人との繋がいを

第1グループ 新しい自治会運営のあり方

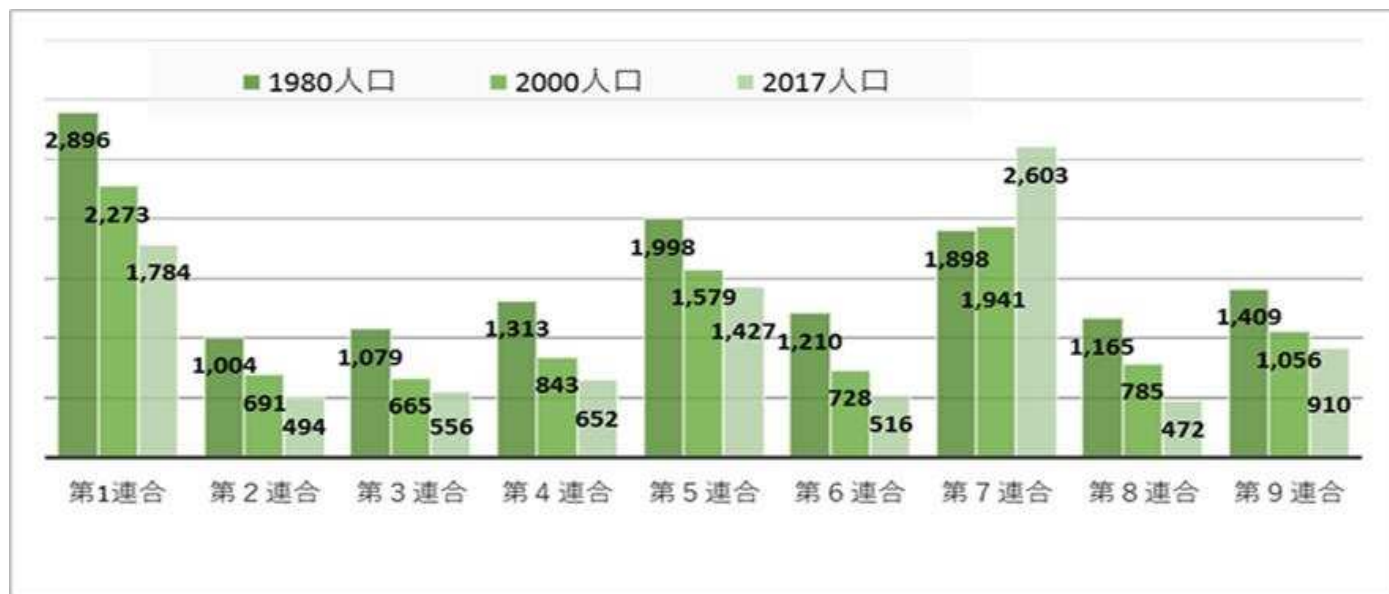
自治会の規模が小さくなり、地域住民が高齢化するなかで、これからの自治会の運営について、下記のようなことを意見交換しました。

- 自治会同士が連携して進められることは？
- 当連合会、連合自治会、自治会の役割分担を明確に見直しては？
- 市の委嘱委員（交通安全、環境推進員など）を地区の実情を踏まえて見直しては？
- 自治会への女性参画や、自治会事業への他地域の方の参加を促進しては？
- 自治会の枠組みを見直しては？

懇談会では、長浜地区特有の課題として曳山まわりの運営、昼夜の人口格差、商店の減少に伴う問題をはじめ、高齢化し役員のなり手がなく、ゴミ当番が回れないといった切実な意見が出されました。

解決のために、まずは地域の現状を知り、既存コミュニティの役割の見直し、女性の参加や地区外の人たちとの繋がりづくりといった意見が出ました。

連合自治会の枠組みを越えて、また市の職員と膝を突き合わせて、「なぜ」「なんのために」「何を大切にするのか」の話し合いができ、今後もこうした場を、との意見も多く聞かれました。



「自助・共助・公助」に加え「近所」力を

第2グループ 高齢化に伴う地域連携のあり方

当グループの懇談会では、地域での高齢者対応について下記のような課題が出ました。

- デイサービスやサロン活動に参加できる人はよいが、日常の買物にも行けない人に対する支援が難しい。（自治会長、組長などの個別対応では限界がある。）
- 国民年金の収入だけで、介護施設に行けない人、デイサービスを受けられない人への支援が必要
- 民生委員は引き受け手が少なく「奉仕」「名誉」だけでは難しい。（福祉委員の選定も困難。）

課題解決のための地域連携、助け合いでは次のような意見が出ました。

- 地域イベントを通してコミュニケーションを図る。

○防災活動やあいさつ運動を通して老若男女が参加できるコミュニケーションの場づくり、自治会を越えた連携を図る。

○高齢者宅を訪れる、おしゃべりボランティア（かしまし娘）の提案を一人暮らし支援などに役立てる。

今回の懇談会で「自助・共助・公助」に加え「近所」の力を合わせる地域づくりが再確認できました。



田町会館での第3グループの暮らしデザイン懇談会

図書館跡地を防災拠点に

第3グループ 防災力向上のための連携方策

当グループの自治会数は23、自治会あたりの世帯数は平均35世帯という少なさ。1自治会で防災への備えなどの対策を取るのが困難です。

そこで出された意見は、曳山祭の山組の結びつきを生かした防災面の取り組み。当地区にある万歳楼、猩々丸、月宮殿という山組は複数の自治会で組織され、住民同士が自治会の枠を越えて強い絆で結ばれています。

山組のない地区でも、魅力ある交流イベントを企画して普段からの結びつきを強め、災害時ににおける助け合いの契機に、という意見が出ました。

さらに出された意見が、図書館の跡地利用。住宅密集地にあって、図書館の前庭や駐車場は貴重な空間であり、住民の大切な地域資産。しかも当該駐車場の一角には防火水槽が埋設されています。

災害時に長浜小学校が避難場所に指定されていますが、高齢者などにとって図書館跡地は一次避難場所として最適なロケーション。図書館移転後の跡地利用について、長浜市と地権者である県に要望していくことを確認しました。

暮らしデザイン懇談会ふまえて市長へ要望

1. 自治組織の体制・運営の充実への支援

- (1) 単位自治会の体制整備と運営への支援
- (2) 当連合会への財政的、人的支援の充実 など

2. 人口減少に適した暮らしづくりへの支援

- (1) 地域共生社会の実現に向けた円卓会議（ラウンドテーブル）設置などへ支援
- (2) 一人暮らし高齢者等の暮らしへの支援 など

3. 防災体制・施設の整備への支援

- (1) 地域防災、高齢者支援、子育て支援のための拠点施設の確保と長浜図書館跡地の活用
- (2) 大災害を見据えた、より安全で現実的な避難体制の確保
- (3) 空き家問題（防犯・防災）等への対応 など

4. その他 米川の治水対策、除雪対策 など

「協働」で健康な地域をつくる

「スマートウェルネスシティ・長浜まちなか研究会」報告

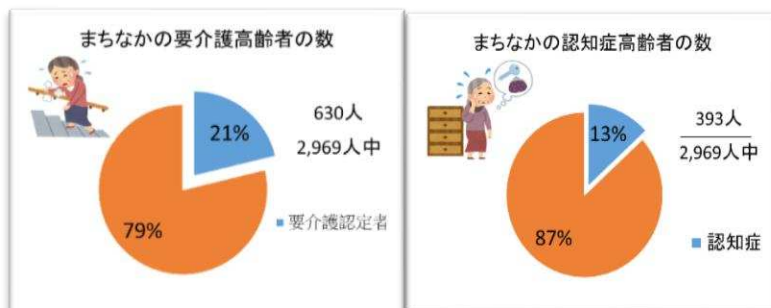
長浜地区の健康づくりについて、地域と行政との協働により進めていくため、「スマートウェルネスシティ・長浜まちなか研究会」（市、社協、包括等の保健師等で構成）での調査研究を踏まえ報告会を実施しました。

この報告会での内容をお知らせします。

※ウェルネスとは、広い視点からの健康観で、身体的、精神的、社会的に良好な状態を意味するものです。

●被支援者の急激な増加と家族への負担

当地区では高齢者の5人に1人は要介護状態、高齢者の10人に1人は認知症がある状況です。家族の精神的、あるいは外出できないといった負担があります。



●毎日外出する人は、認知機能低下の危険が少ない

外出が1週間に1回以下の人は、毎日外出する人に比べて認知症の危険は実に3.49倍。生活の中で「頭を使うこと」「交流すること」を意識しましょう。

趣味やボランティア、仕事など、みなさんの生きがいや楽しみはなんですか？生きがいや楽しみを続けることが、頭を使う、外出することにつながります。

外出頻度と認知機能低下の危険度

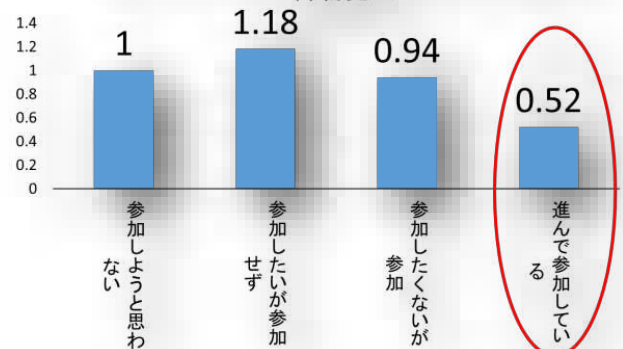


(東京都健康長寿医療センター調べ)

●自発的なボランティア参加は健康維持に効果

ボランティア参加には自発性が大切です。健康維持には「どのような種類の活動をすべきか」というより、「その人にとって楽しさや、やりがいを感じている活動か」が重要なポイントです。

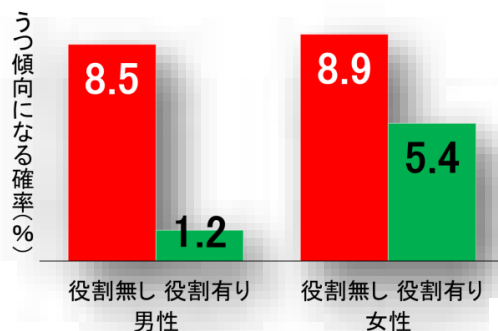
ボランティア活動参加の有無・意向と3年後のADL障害発生



(藤原佳典ほか 第25回日本疫学学会総会 2015)

●役割のある社会参加は心の健康によい

いつまでも自分らしく住み慣れた長浜地区で暮らすには、身体面だけでなく心の健康も大切です。役割をもって社会参加している人は、うつ傾向になりにくいことがわかっています。地域の人たちと集まる機会をお客さんで過ごすのはもったいないですね。役割を持って社会参加をしてみましょう。



(JAGES 研究 高木氏ほか)

<地域のめざす姿は>

「みんなが元気で、楽しく、自分らしく、住み慣れたまちなかで暮らし続けること」が地域のめざす姿。

そのためには、どうしたらいいのでしょうか？

こんな取り組みが提案されました。

- 1 居場所づくりを広げよう！（サロン・転倒予防自主グループなど）
- 2 閉じこもり、孤立しがちな高齢者を支えよう！（おしゃべりボランティア・かしまし娘など）
- 3 みんなの顔の見える機会をつくろう！（子ども食堂など）
- 4 地域住民と専門職がつながり、安心を創る「地域まるごとケア」を！（地域円卓会議の設置など）

健康づくり講演会のご案内

いつまでも、健康で、楽しく！

日 時 平成31年3月2日（土） 午後1：30～

場 所 曳山博物館・伝承スタジオ

講 演 I 部 「第二の人生を楽しむコツ」

夢こらほ主宰 松尾弥生さん

II 部 「おしゃべりボランティアでいきいき」

堅田★おしゃべり★ボランティアグループ

後藤千津さん 山口寿津子さん

申 込 入場無料 当日、直接、会場まで

主 催 長浜地区地域づくり連合会・長浜地区社会福祉協議会